

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業名	高齢社会対応既存交通補完研究事業			会計	款	項目	大率	小事
政策	01	1節 整備・開発と自然環境のバランスがとれた流山（都市基盤の整備）	主管課	都市計画課				
施策	1-8	利便性と快適性を重視した公共交通機関の整備充実	主管課長	長橋 祐之				

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	既存の交通機関利用では十分な移動ができない地域の高齢者	意図	道路状況や地域性を考慮した移動手段が提供され、高齢者が外出しやすくなる。
事業内容	高齢化社会の進展に対応し、地域の公共交通（路線バス、ぐりーんバス）利用者と、福祉的移動サービス（福祉タクシー等）利用者との中間に位置づけられる新たな移動策を研究する。			
事業開始から現在までの状況変化	既存の公共交通手段より、さらにきめ細かな移動支援策が望まれている。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	①	研究成果の実用数	0	0	0	団体	→→
②							
③							
④							
⑤							
⑥							

指標で表すことができない定性的な成果				目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）
事務事業のコスト	平成27年度	平成28年度	平成29年度	地域移動支援の新たな方策として、定時定路線運行以外の形態による、地域の状況に即した交通手段の検討を含め、交通に不便を感じている地域の方々と協議をしている。
事務事業の総コスト(a=b+c)		686,500	2,133,600	
事業費(b)(円)			120,000	
うち一般財源			120,000	
職員給与費(c)(円)		686,500	2,013,600	
人役・職員(人)		0.10	0.30	
人役・再任用(人)				
人役・臨職(人)				
人役・嘱託(人)				
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）				
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）				

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	B 達成できなかった
		市関与の必要性	B 市が担うとともに、市民協働を進めるべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	I 拡 充 （事業を拡大して継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H29)の改善計画	・学識経験者を招き、東部地区の住民団体及び自治会を対象に、勉強会を計4回開催し、新たな交通手段の検討を行う。	③取組の課題	・導入予定地域の周辺を運行するタクシー事業者やバス事業者との協議・調整が必要である。
②今年度(H29)に実施した取組	・計4回の勉強会及び交通需要調査の結果から、交通不便地域を指定した。	④今後(H30以降)の改善計画	・平成29年度に行った交通需要調査の結果に基づき、高齢社会に対応した新たな交通手段の導入方法について、引き続き地元住民等と協議を進める。